

NPO法人 はこだて街なかプロジェクト

<目的>

この法人は、函館市及び道南地域の市街地の所謂「街なか」に居住し又はそのまちづくりに関心のある人々に対して、まちの情報の収集と発信、まちの魅力の発見と創造、まちづくりの企画と実践などに関する事業を行い、活力と魅力に満ちた未来に持続するコンパクトな「街なか」の創造と発展に寄与することを目的とする。

<特定非営利活動>

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 地域安全活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動
- (5) 経済活動の活性化を図る活動
- (6) 消費者の保護を図る活動
- (7) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

<事業>

- (1) 街なかについてのアンケート調査などによる情報収集、現地調査やまちづくりに関する事業
- (2) 街なかの調査・研究結果、居住物件などの情報発信と情報交流に関する事業
- (3) 街なかの魅力発見・魅力創造に関する事業
- (4) 街なかのまちづくりに関するシンポジウム等の開催に関する事業
- (5) 空き家・空き地の有効な利活用など街なかのまちづくりに関する構想・企画・提案・計画・実践に関する事業
- (6) 街なかのまちづくり活動の支援・相談に関する事業
- (7) 関係団体・行政・個人との交流・協力・ネットワーク形成に関する事業
- (8) 前各号の事業に付帯する事業

<はこだて街なか みてあるきマップ>

平成24年に再版した「はこだて街なかみてあるきマップ」の内容と、景観登録建築物調査（平成24年度実施）で発掘した和洋折衷建築物を、マップⅡとして発行しています。観光マップにはない、建物から歴史を学ぶ手助けになるマップです。

マップⅡは表面には現存する歴史的建造物や今は無い歴史的建物の紹介、街なかへ何気なく残されている意外な物等、29の物件を紹介しています。裏面は、表面で紹介した建物等の位置を示した西部地区の地図で、旧町名やかつてあった建物等の跡地を紹介しています。よりまちへの関心を深めてもらうため、建築様式、建築家、大火や再利用など様々な情報を提供したいと考え作成いたしました。



<伝統的建築技術継承人材育成事業>

取組の目的・背景

函館市西部地区において、歴史的建造物の維持・保全に携わる職人不足により伝統的建築技術や保全修理技術の継承が困難となっていることから、技術を継承する人材の育成を図る事業です。事業開始当初は当NPO会員が人材育成事業活動のスタッフとして事業に参加し活動を支え、令和5年度には当NPO法人の自主事業としてこの事業の継続をはかりました。

取組の内容

1カ年目は、伝統的建築技術に携わる職人の内、2技能職人を選定し、西部地区にある歴史的建造物で修繕を必要とする建物を調査し、修繕計画を策定する研修を行う。伝統的建築技術の知識と技術の向上を図る。2年目は、前年度の修繕計画を基に実作業を伴う実習を実施し技術の習熟を図るほか、異なる2技能職人に対して調査・修繕計画を策定する。3年目は、2カ年目に修繕計画を策定した2技能職人に対して、実作業を伴う実習を実施するほか、異なる技能職人に対して調査・修繕計画を策定する。4年目以降は、職人研修の場を職種6団体及び自治体と協力して作り上げ、令和5年度までは人材育成事業として継続し現在は今後の技術継承について各団体と意見交換を行っています。

取組の成果

伝統的建築技術継承の人材を育成することにより、職人の伝統的建築技術に関する知識および技術力が向上し、歴史的建造物の適切な維持・保全を行うことができ、そのことにより函館市の西部地区の町並みの魅力が向上し、更には観光客をはじめ交流人口の増加に繋がるものと考えます。事業は歴史的建造物が活かされ、地域の魅力が生き、市民と関わった職人は西部地区の街並みに誇りを持つことができると考え取り組んでおります。

取組の課題と期待

伝統的建築技術は一朝一夕で身につくものではなく、継続して技術の研鑽に励む必要があります。今後は実際の歴史的建造物での実作業を行う機会を確保し、歴史的建造物の扱い方や保全の考え方修理の方法を学び、建物の歴史と向き合いながら技術の習熟と継承する意義を深めることにより、歴史的建造物が活かされ地域の魅力を生かすことに繋がるものと考えます。

伝統建築の技 継承さらに

2023年 10月5日 木曜日

北海道新聞

西部地区 魅力を高め後世へ

NPOの研修会 最終年度

往時の塗料で「教会」修繕

<建築物利活用促進プロジェクト・旧ロシア領事館>

旧ロシア領事館

函館旧ロシア領事館の利用促進を進めるため、聞き取りと実践に向けた計画及び利活用をサポートする提案や現地調査に基づく既存調査活動を行いました。

函館旧ロシア領事館とは？

幸坂の最高地点付近に建つレンガ造りの和洋折衷の建物。日本最初のロシア領事館として現在地で1906（明治39）年竣工。現在の建物は40年大火後の1908（明治41）年に再建。昭和39年には函館市立道南青年の家として使用されていました。

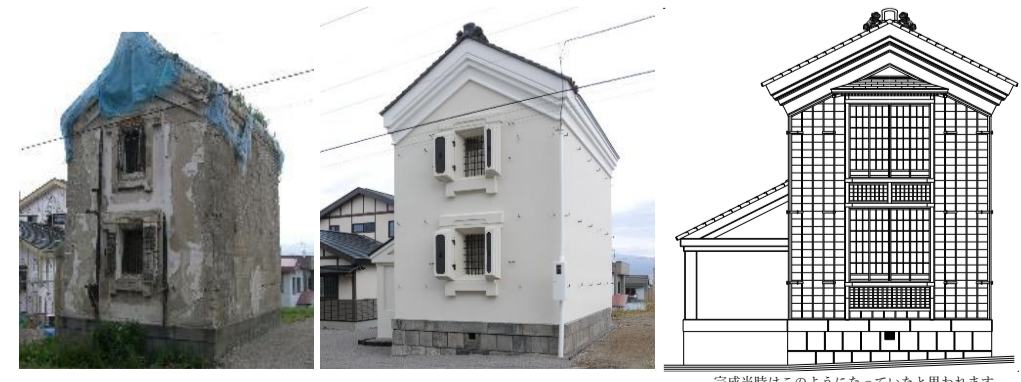
現在は民間企業が函館市より買取り、宿泊施設として開業するための改修工事が行われております。



<建築物利活用促進プロジェクト・蔵保存>

函館西部地区にある蔵の保存利活用プロジェクトです。

調査後の保存修理の図面作成および利活用プランの具体的な提案図面の作成を行いました。



完成当時はこのようになっていたと思われま